

# 夜間急病センターを来春、開設 旧NTT住吉ビルを8000万円で購入

五月三十一日、臨時市議会が開かれ、大楽毛下水処理場の火災によって消失した機器の入れ替え、動物園のジェットコースターの車軸の修繕、阿寒中学校の建て替え工事契約などの議案が採択されました。

来春設置が予定されている夜間急病センターの用地取得も可決されました。これまで、夜間の救急患者は医師会病院で受け入れてきましたが、来年4月から、内科と小児科は市が設置する「夜間急病センター」で受け入れることとなります。医師会病院の医師の負担を軽減するためです。

場所はNTTの旧住吉ビル、生協富士見店の斜め向かいです。夜間急病センターのほかに、こぼと学園、わかば整肢園などの障害児の施設が一緒に入居します。土地と建物の購入費が8千万円、さらに7億円ちかくをかけて、大改修をします。

## 帯広の夜間急病センターを視察

石川明美議員とともに、すでに三〇年以上の実績のある帯広市夜間急病センターを視察してきました。

ここでも例にもれず、医師確保に四苦八苦しています。運営赤字の補てんで市は毎年8千5百万円を支出しています。

問題の根本には、国の無策による医師不足の問題があります。

### 視察を通して考えたこと

夜間救急はどうしても赤字の分野です。これだけの赤字補填をしても、実際の患者数は一日12人とのことでした。効率的な運営が必要です。

医師確保が一番の苦勞とのことでした。常勤医師はもちろんのこと、医師が休暇をとったときの代替医師の確保にとても苦労しているとのことでした。医師会からのしっかりと医師派遣の協力が欠かせません。

入院はできません。重症なら市立病院の受診となりますが、どうしても患者は大きな病院に集中しがちです。市立病院との連携と分担をはっきりさせなくてはなりません。



村上かずしげ通信 6/10

発行 村上和繁 (連絡先 共産党市議団 23-5212)